第173回 上級 工業簿記①

問題 1

 間1
 価格差異
 1,270,000
 円(借 方) 差異 ④

 数量差異
 280,000
 円(借 方) 差異 ④

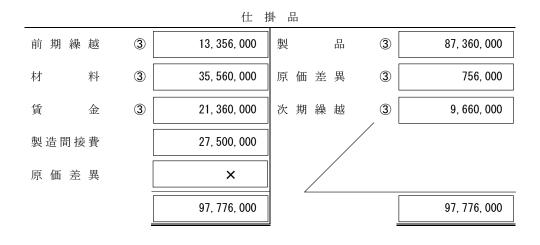
問2

二分法 順序は問わない

間4 パーシャル・プランによる場合の直接材料費



問3



36, 830, 000

円 ④

TAC ^{○数字は予想配点} 簿記検定講座

第173回 上級 工業簿記②

問5

<u>損益計算書</u> (単位: F 3) 102, 300, 00 87, 360, 000 96, 000, 000 6, 720, 000 89, 280, 000 1, 028, 553 90, 308, 55
8, 640, 000 87, 360, 000 96, 000, 000 6, 720, 000 89, 280, 000
87, 360, 000 96, 000, 000 6, 720, 000 89, 280, 000
87, 360, 000 96, 000, 000 6, 720, 000 89, 280, 000
96, 000, 000 6, 720, 000 89, 280, 000
6, 720, 000
89, 280, 000
1, 028, 553 90, 308, 55
③ 11,991,44
19,200 円 (借 方) 差異 ⑤ 70,560 円 (借 方) 差異 ⑤ 36,600 円 (貸 方) 差異 ⑤
る混合差異の部分を価格差異に含めて計算しているため
まれているので、管理可能な数量差異をなるべく純粋な



第173回 上級 原価計算①

問題 1

問 1

④ 1,200 円/k1

間2 (単位:円)

	原料事業部	薬品事業部	全 社
売 上 高	(2 6,580,000)	(23, 220, 000)	(② 25, 000, 000)
変 動 費	(2,800,000)	(2) 12, 920, 000)	(② 10, 920, 000)
(貢献利益)	(3, 780, 000)	(10, 300, 000)	(14, 080, 000)
個別固定費	(3, 200, 000)	(5, 600, 000)	(8, 800, 000)
事業部利益	(② 580,000)	(② 4,700,000)	5, 280, 000)
本 社 費			(1, 820, 000)
全社利益			(② 3, 460, 000)

問3

	損益分岐点売上高	計算過程	
ケース 1	18, 856, 534 円	10, 620, 000円÷0. 5632≒18, 856, 534円	⑤
ケース 2	19, 175, 459 円	10, 620, 000円÷0. 5538⋯≒19, 175, 459円	⑤

間4 (有利・不利) は適切なほうに○をつけなさい。

問5 結論の(原料・薬品)は適切なほうに○をつけなさい。

事業部	残余利益	計算過程	
原料事業部	—710,000 円	580,000円-8,600,000円×15%=-710,000円	4
薬品事業部	1, 900, 000 円	4,700,000円-14,000,000円×20%=1,900,000円	4
結論: (原料・薬品 事業部の収益性が高い。			2

第173回 上級 原価計算②

問6

原料事業部では総原価を基準にした内部振替価格を用いていることから、薬品事業部への引渡 分について利益が計上されないからである。

問7

市価を基準にした内部振替価格を用いればよい。

6

6)

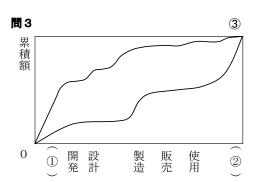
結論の(原料・薬品)は適切なほうに○をつけなさい。

	事業部	残余利益	計算過程]
	原料事業部	1,610,000 円	-710,000円+(@1,780円-@1,200円)×4,000kl=1,610,000円	4
	薬品事業部	-420,000 円	1,900,000円-(@1,780円-@1,200円)×4,000kl=-420,000円	4
結論: (原料) 薬品) 事業部の収益性が高い。			2	

問題2

問 1

1	企 画	3
2	廃棄	3
3	トレード・オフ	3
4	販売価格	
5	ユーザー	3



問2

ユーザーの負担するトータル・コストが最小になるように、原価企画を行うこと。

8

問4

環境コスト

4